

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所支援事業所 ほのぼの		
○保護者評価実施期間	令和8年1月14日		～ 令和8年1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和8年1月14日		～ 令和8年1月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育と集団療育を利用者一人ひとり発達段階や課題に合わせて組み合わせて療育を実施している。	集団療育の場合は異年齢、同年齢のそれぞれのメリットを生かすことができるように目的に応じて集団の組み合わせを行っている。また、一人ひとりの発達課題に対してピンポイントで対応できるように個別療育も併せて行っている。	今後も集団療育では目的を明確にしなが、個別療育で獲得したスキルを発揮できるような環境調整やプログラム設定を行っていく。一人ひとりの発達に合わせて、個別療育と集団療育の割合や内容を調整していく。
2	送迎療育を行っており、保育園や幼稚園、認定こども園に通いながらの利用がしやすい。	利用者一人ひとりの利用予定に合わせて送迎のコースや職員の配置を調整している。送迎の際には、園での様子、療育中の様子を園の職員としっかり共有し、その日の様子や健康状態に合わせて日程の組み直しなども臨機応変に行っている。	今後も利用者、ご家族がそれぞれの生活に合わせて、児童発達支援を受けることができるように、安心安全な送迎療育を実施していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニング等の家族支援を専門性高く行うことができる職員が少ない。	OJTを通して経験の豊富な職員が他の職員の指導・育成に当たっているが、新しい職員が多く、育成が追いついていないのが現状である。	OJTや研修会を通じて職員の技術や知識の向上を目指し、ペアレントトレーニングに対する理解を深めていく。こどもの発達段階や発達課題、強みなど保護者と共有しやすいツールなども新しく学びながら取り入れていく。
2	多機能で放課後等デイサービスも行っており、一日に児童発達支援を提供できる枠に限りがある。	放課後等デイサービス、児童発達支援の利用ニーズの増加。専門的な資格をもつ職員の確保。	児童発達支援のニーズも少しずつ増えてきているので、地域のニーズや実情に合わせて事業を展開していけるように検討を重ねていく。当面は調整を行いながら可能な限り利用のニーズに対応していく。
3			